

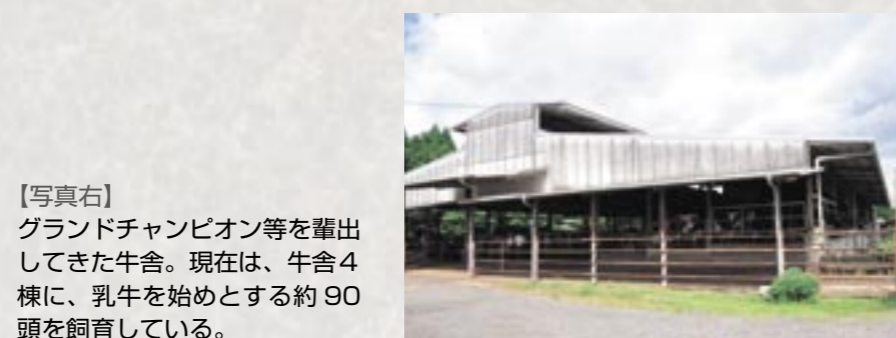


【写真上】
仕事は、家族で分担している。毎朝・夕の搾乳は夫祐喜さんと次男の仕事。餌を与えるのが長男、奥さんが哺乳。エミ子さんは育成を担当している。8月はそれらに加え、飼料作りの時期に入り、多忙を極める。

【写真下】
体調などにも左右されるが、1頭の乳牛から搾乳されるのは、1日約30キログラム。(朝夕2回搾乳)。1日で搾乳される牛乳は、全頭で約2.5トンを及ぶ。

「身に余る光栄。主人や関係者の理解があったからこそ、できた活動です」
6月27日、内閣総理大臣官邸で行われた『平成23年度男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰式』で、酪農を営む加藤エミ子さんが表彰を受けた。男女共同参画の推進に貢献してきた人を顕彰するもので、今年エミ子さんを含め、全国から9人が受賞。県内で3人目となる。

エミ子さんは、21年におたり、小林市酪農青年女性部会長を務め、西諸地区、宮崎県、九州、そして全国酪農青年女性会議の委員長等を歴任。また、女性ネットワークの形成（西諸地区区農村女性会議の設立）や、政策等の決定過程へ女性登用を推進する働きかけ、JAこばやし初の女性理事就任、理事の女性特別枠確保など、その業績は枚挙にいとまがなく、全国の女性農業者の経営参画・地位向上に尽力してきた。



【写真右】
グランドチャンピオン等を輩出してきた牛舎。現在は、牛舎4棟に、乳牛を始めとする約90頭を飼育している。

を家族で継いだ。勤め人から一転、酪農を営むことになった中で、健全な経営を続けていくために「経営の場では、夫婦が対等でなければならぬ」と想いを強めた。当時は、経営に関して夫が強い決定権を持っているのが常。しかし、夫の祐喜さんは「ぶつかるとは多いが、結果的に経営改善につながる」と理解を示した。また、農業で食べていくためには、組織の充実が不可欠と判断。エミ子さん自ら数々の組織に入り、役職を務めることになる。組織の役割を背負うと、家族を犠牲にしなければなら

ない部分もあった。夫婦がお互いに理解を示せたからこそその活動であった。祐喜さんはエミ子さんを「自分の主張も言うが、人の話も聞く。前向きに意見が言える人」と評する。そして「頑張り屋さんの良い奥さんをもたらした」と、最高の賛辞を贈った。今後は一線を退き、後継者育成に移る方針。「『功労者』という言葉のとおりに、後進に道を譲る立場。後輩への協力は惜しみません」エミ子さんは、次代の担い手を後押ししながら、女性の社会参画の可能性を広げ続けている。

活動を通して出会った仲間・酪友が一生の宝

女性の社会参画に貢献し、
内閣総理大臣表彰を受けた
かとう
酪農家 加藤 エミ子 さん
Kato Emiko (北西方)